

はじめに

2019年、あまりにも多くの子どもたちが生まれ持った能力を十分に発揮できない状況を打破するため、ユニセフは子どもや若者たちと連携し活動しました。同時に、新たな機会を創出し、夢や希望に手が届くよう支援しました。

2019年も多くのことを成し遂げました。

ユニセフは190を超える国と地域で、子どもたちが生き延び、健康に成長し、学校で学べるように、そして最大限の機会を得られるように支援を行いました。そして、世界中のパートナーと連携し、子どもたちを守り、安全な環境を確保し、貧困を削減し、有害なジェンダーの規範に対処し、差別と闘うために取り組みました。

緊急時においては、子どもたちと家族に基本的な栄養、教育や医療に加え、メンタルヘルスと心理社会的サポートを提供しました。移民・難民の子どもたちには保護サービスを提供しました。

そして2019年は、子どもの権利条約が採択されてからちょうど30周年にあたる年でした。2020年の初めには、ジェンダーの平等と女性のエンパワーメント（社会的地位の向上と能力強化）に関する北京宣言および行動綱領の25周年を祝いました。

採択30周年を記念して、110の国連加盟国は21世紀に子どもの権利を実行に移す決意をあらためて表明し、24の政府が新たに国を挙げて取り組むと確約しました。

子どもとSDGs（持続可能な開発目標）関心国グループの共同議長国、ブルガリア、ルクセンブルク、ジャマイカの支持を受け、自発的でグローバルな公約「すべての子どもにすべての権利を」（For Every Child, Every Right）を打ち出しました。

将来の展望

過去を振り返ることはあっても、私たちの目は常に未来を向いています。

2020年からの新たな10年のスタートに際し、世界は今、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に立ち向かっています。COVID-19は、世界的流行で何十万人もの命を奪い、至るところで子どもたちの家庭や学校に深刻な影響を及ぼし、彼らの幸福と未来を脅かしています。

ユニセフは、子どもたちとその家族をウイルスから守るために情報やサービスを提供する一方で、特に社会から取り残されている子どもたち、すなわち貧困、暴力、紛争の中で生きている子どもたち、あるいは、移民・難民、国内避難民の子どもたちに及ぶ隠れた影響を把握することにも努めています。



マリのカイ州のユニセフ現地事務所で予防接種担当官を務めるアブドゥライ・コナーテ。ラマータ・ディアロさんに、予防接種を受けたことのない末っ子のハキームちゃん（11カ月）にワクチンを接種することの重要性を説いています。金鉱山地区など支援が届けにくい地域に暮らす、不利な立場にある人々に移動予防接種サービスを提供することは、ユニセフとそのパートナーがすべての子どものために実施してきた取り組みの一つです。

ユニセフとGAVIアライアンスをはじめとするパートナーは、最も隔絶され、不利な立場に置かれた子どもたちにワクチンを届けるマリの保健省を支援しています。

COVID-19 という新たな世界的脅威が出現したのは、アントニオ・グテーレス国連事務総長が、2030年までにSDGsを達成する取り組みの一環として、「行動の10年」を呼びかけたのとちょうど同じ時期でした。

ユニセフがこの呼びかけに呼応したことで、子どもたちへの投資がさらに注目されることになりました。子どもたちへの支援は、SDGs達成の鍵となるものです。そこで「ユニセフ戦略計画 2018-2021年」およびSDGs達成に向けた進捗状況の評価を行いました。

戦略計画の実行

「ユニセフ戦略計画 2018-2021年」は、世界がSDGsに合意した直後に策定されたもので、SDGs実現に向けて成果を上げていくために、以下の5つの目標分野を設定しています。



目標分野 1

「すべての子どもが命を守られ健全に発育すること」には、保健、栄養、HIV/エイズ、乳幼児期の子どもの発達（Early Childhood Development：ECD）と青少年の健康に関する活動が含まれます。



目標分野 2

「すべての子どもが学ぶ機会を得ること」は教育に焦点を当てています。



目標分野 3

「すべての子どもが暴力や搾取から守られること」は子どもの保護に関する取り組みが含まれます。



目標分野 4

「すべての子どもが安全で衛生的な環境で暮らすこと」には、水と衛生に関する活動、気候変動、災害リスクの軽減、都市環境への取り組みが含まれます。



目標分野 5

「すべての子どもが人生において公平な機会を得ること」は、誰も置き去りにしないというユニセフの強い決意の表れであり、貧困、ジェンダーの平等と差別への取り組み、障がいのある青少年と子どもへの支援、あらゆる年齢の子どもたちの安全で有意義な参加と市民参加を支援するための取り組みが含まれます。

戦略計画にはまた、「人道支援」と「ジェンダーの平等」というユニセフのすべての取り組みに関わる、2つの分野横断的な領域も置かれています。

加えて、戦略計画では4つの促進要素と8つの変革戦略も示しています。本年次報告で扱っている変革戦略は、**政策決定者や市民から、子どもや若者の問題への取り組みに対する支持を獲得すること、子どものための資源とパートナーシップを開拓、活用すること、ビジネスの力を子どものために活用すること、子どものためのプログラム策定とアドボカシー（政策提言）双方におけるイノベーションを促進すること**です。

成果を加速させる

本年次報告は、ユニセフが戦略計画の中間期を迎える時期に発表されます。成果の年次評価に加え、中期評価においては、子どもに関連する多くのSDGs目標達成に向けて明らかな進展があったことが浮き彫りになりました。また、国連のシステム全体を通じて、各機関は引き続き知見や経験を共有し、取り組みを調整し、SDGsに向けた成果を加速させるために協力していきます。

しかし、SDGsと戦略計画の目標を達成するためには、進展を加速させる必要があります。達成までの道のりが長く、進捗が強く懸念される分野があるのです。

2019年までに、ユニセフ戦略計画に掲げられている目標の74%が達成されました。しかしこれは同時に、ユニセフがSDGsの多くの分野で大きな成果を上げている一方で、遅々として進まない分野があり、残りの26%は軌道に乗っていないということを示します。例えば、現在のペースではSDGsの目標のうち、予防接種、保健、栄養、HIV/エイズ、乳幼児期の子どもの発達（ECD）といった多くの重要な課題に関して達成は難しいと言わざるを得ません。加えて、次の項目に関連した目標も進捗が遅れています。

- 質の高い教育へのアクセス
- 出生登録と子どもへの暴力
- 安全に管理された水と衛生
- 災害リスクの軽減と気候変動
- 子どもの貧困

主要な成果

2019年、ユニセフは以下の支援を行いました。

96カ国で281件の緊急事態における**人道支援**。

保健施設における約2,800万人の赤ちゃんの**安全な出産**。

5歳未満の子ども3億700万人への**栄養不良を予防**するためのサービス。

緊急事態下に置かれた**重度の急性栄養不良**の子ども410万人に対する**治療**。

学校に通っていない子ども1,700万人への**幼児教育、初等・中等教育**、および400万人の子どもと若者向けの**能力開発プログラム**。

安全な飲料水を利用できる人が1,830万人増加、**基本的な衛生サービス**を利用できる人が1,550万人増加。

47カ国において2,100万人以上の**出生登録**。

49カ国2万495校の学校への直接支援を含む、**月経時の保健・衛生サービス**の拡大。

緊急事態下に置かれた850万人を含む、5,100万人の子どもたちへの**現金給付プログラム**。

10代の女の子570万人への**児童婚防止**のためのケアと支援。



課題

子どもたちのために SDGs を達成していくには、COVID-19 の世界的流行を含む前例のないレベルの人道危機の状況と、柔軟に使用できる予算が限られているという資金状況が課題です。

2019 年、ユニセフの資金は全体として増加しました。それは、民間部門と公的部門からの特定の目的（その他の予算）への拠出が増えたためですが、一方で支援先の国や地域、分野を限定しない「通常予算」は減少しました。通常予算は、ユニセフが、イノベーション、新しいパートナーシップ、キャパシティの拡大やデータの改善によって支援体制を整え、成果を加速させるために不可欠です。さらには、緊急事態において迅速に対応するためにも欠かせません。



右：アフガニスタンのカンダハルにあるシャヒード・アブドゥル・アハド・カン・カルザイ児童養護施設の外でたたずむ少年たち。

© UNICEF/UNI229588/Bouvet

ユニセフの支出総計（2019年）

（単位：百万米ドル）

支出区分

開発支援事業費	5,529
プログラム費	5,363
支援の実効性を高めるための費用	166
管理・運営費	392
国連の開発支援事業に関わる連携調整費	10
特別な支出（設備投資を含む）	29
民間部門との連携とパートナーシップ	222
その他	77

総支出

6,259

注：この表の区分別の支出は、修正現金主義に基づいて示されている。

事業支出割合 (2019年)

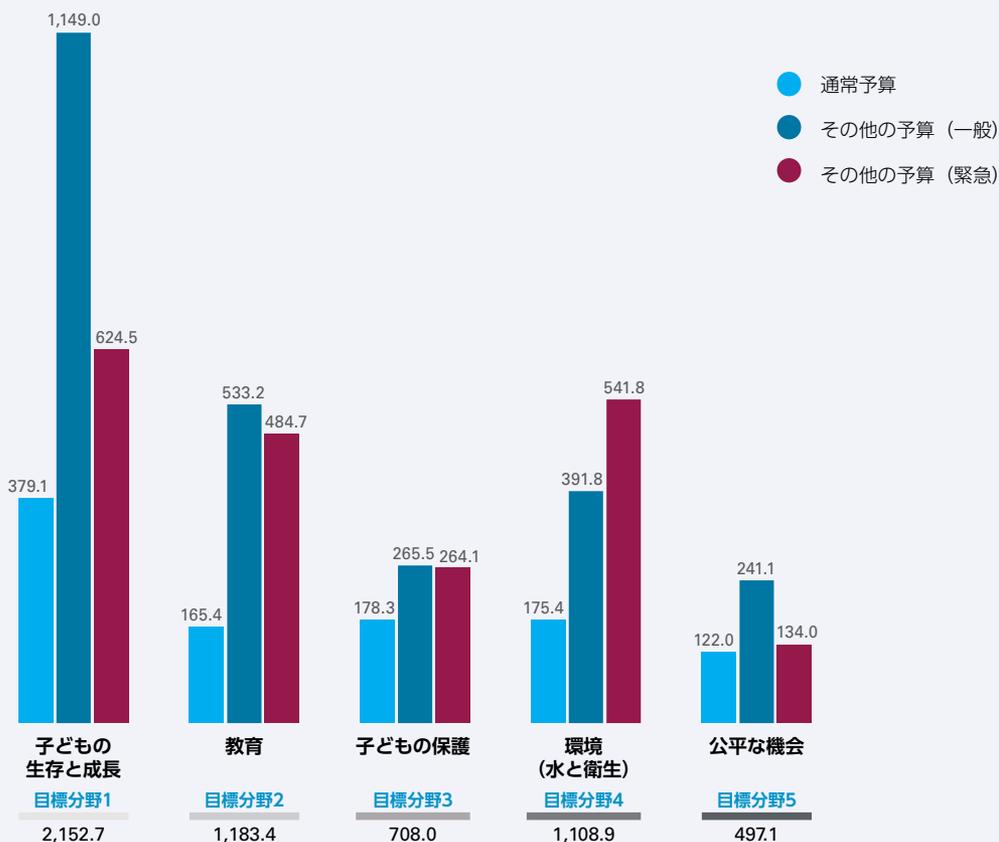
(単位：百万米ドル)

注：四捨五入のため合計額は必ずしも一致しない。

目標分野別



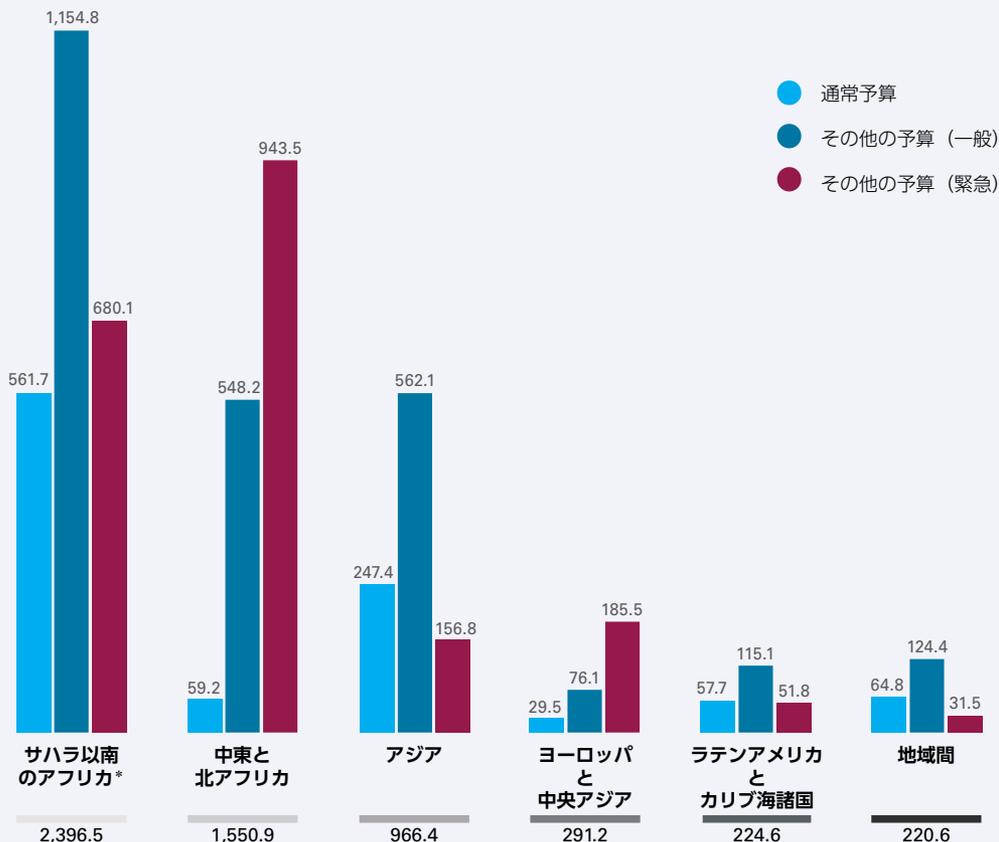
支出額合計
56億5,000万米ドル



地域別



支出額合計
56億5,000万米ドル



*ジブチの事業支出は、サハラ以南のアフリカに含まれる。



行動の10年

国連は、今後の10年をSDGs達成に向けた「行動の10年」として、子どもたちのために望ましい前進を加速させます。その中でユニセフは、子どもたちの保健、栄養、水と衛生、乳幼児と青少年の発達を効果的かつ効率的に改善する活動を優先して取り組みます。

すべての子どもが学校に通い、学ぶことができる世界の実現に重点を置き、子どもたちと彼らを取り巻く環境を守る活動を強化します。

常に、最も取り残されている子どもたちに焦点を当て、社会的養護（家庭にかわり社会が子どもを養育する、または困難を抱える家庭を支援すること）の支援を実施し、ジェンダーや能力に基づく差別をなくす取り組みも進めます。

優先事項には以下が含まれます。

- ▶ 主要な重点分野の加速
- ▶ 開発支援と緊急人道支援間のプログラムの連携強化
- ▶ 現代の教育と職業技能に焦点を当てたパートナーシップ「Generation Unlimited」（無限の可能性を秘めた世代）
- ▶ 地域に根ざしたプライマリ・ヘルスケア（地域保健医療）
- ▶ メンタルヘルス
- ▶ 気候変動
- ▶ 知的リーダーシップ
- ▶ イノベーション
- ▶ ジェンダーの平等

そして、COVID-19の世界的流行が子どもの権利を脅かし続ける中で、ユニセフは、行動を起こし(Respond)、後退を取り戻し(Recover)、そしてすべての子どもにふさわしい世界を再創造する(Reimagine)ための行動を主導し、次のような行動を呼びかけています。

- ▶ 子どもたちの健康および良好な栄養状態を守る
- ▶ 不利な状況にある子どもたちが水、衛生設備（トイレ）、衛生的な環境を利用できるようにする
- ▶ 子どもたちに継続的な教育の機会を提供する
- ▶ 家庭のニーズを満たし、自分の子どもたちをケアできるよう支援する
- ▶ 暴力、搾取および虐待から子どもを守る
- ▶ 移民・難民および紛争の影響下にある子どもたちを保護する

ユニセフでは数千人ものスタッフが、ケア、尊重、誠実性、信頼、アカウンタビリティ（説明責任）という私たちのコア・バリュー（核となる価値）に従いながら活動を続けています。新たな10年を迎えるにあたり、私たちは刻々と変化する世界で子どもたちが次々に直面する課題に対応しながら、SDGsの達成と、子どもたちのためのユニセフの願いの実現に向けて、自らのありかたを見直し、あらためて真摯な姿勢で取り組んでいきます。

世界は子どもたちのために立ち止まってはくれません。絶え間なく変わり続けています。であるなら、私たちもそれに対応し続けなくてはならないはずです。



2019年11月6日、コンゴ民主共和国カサイ州ツィカパのカタンガ保健地区（ツィカパ保健区域）にある新居の外で、子どもたちと一緒に座るローズ・ツペムニさん。家族は今年の初め、紛争の影響で遠隔地の村にある自宅からの避難を余儀なくされました。ローズさんは3歳の娘にはしかのワクチンを打たせてやることができず、娘ははしかにかかって亡くなりました。今、家族はカタンガ保健地区に暮らし、ローズさんは予防接種を優先しています。「今では、子どもたちは全員守られています」と彼女は言います。「この子たちは、全員はしかの予防接種を受けたんです」

© UNICEF/UNI229157/Nybo